

# 一月

汝はやく信仰の寸心を改めて  
速やかに実乗の一善に帰せよ

立正安国論

文応元年（二二六〇）大聖人三十九歳

このお言葉は、日蓮大聖人の御書の中でも有名な『立正安国論』の一節です。本書は、文応元年（二二六〇）7月16日、当時の鎌倉幕府の最高権力者であった北条時頼に対して出された国家諫暁の書です。

ご真蹟は中山法華経寺に現存し国宝となり、ご真蹟の断片や写本は全国の寺院にも現存しています。本書は「旅客来りて歎いていわく」で始まり、対話形式で著されて

います。仏法について問いかけてくる旅客に対して主人が答える形式で、分かり易い文章です。

本書は、(当時の日本で)次々と起こる災難について、刀兵・疫疾・飢饉の大三災と、火・水・風の大三災や、『薬師経』の七難(①人衆疫疾難、②他国侵逼難、③自界叛逆難、④星宿変怪難、⑤日月薄触難、⑥非時風雨難、⑦過時不雨難)、他にも『法華経』『仁王経』等の

災難が挙げられ、法華経を蔑ろにした誤った教えが日本国中に満ちているから、このような災難が湧き起こると説かれました。

災難を対治するには邪法を捨て、唯一の正法である『法華経』を国中で信仰せよとの大聖人のお言葉です。疫病・領土問題・治安の乱れ・風水害・地震・干ばつ等は、今まさに私たちの目の前で起こっており、昔話ではないのです。

# 二月

一切衆生のためには釈迦仏は  
主なり師なり親なり

妙法比丘尼御返事

弘安元年（二二七八）大聖人五十七歳

このお言葉は、弘安元年（二二七八）の9月6日に身延山において、妙法尼宛てに書かれたお手紙の一節です。残念ながらご真蹟は現存せず、写本が身延山と平賀本土寺に現存します。

本書は妙法尼が兄嫁から預かり日蓮大聖人へ贈った太布帷に對するお礼と、妙法尼の兄である尾張次郎兵衛の逝去に對する供養のお言葉で始まり、第一に太布帷へ

の感謝のために、『付法藏経』という經典の商那和修尊者のことを記されました。尊者は過去世に仏を懇ろに供養した功德によつて生まれながらにして聖衣を授かりました。

大聖人は、妙法尼と兄嫁が供養した太布帷は、その聖衣にも勝るものであると深い感謝の気持ちで伝えられました。

また残念ながら当時の日本の

人々は仏法を敬っているつもりで逆に誤った教えを信奉し、私たちが末法の衆生が、三つの徳(私たちの主であり、師であり、親であられる)を具えられた釈尊を蔑ろにする謗法の大罪を犯している状況を、諸宗の教えとその誤りを挙げられて、そのあかしが承久の乱をはじめとする内乱の頻発や、蒙古襲来となつて現れていると説かれました。

# 三月

天晴れぬれば 地明らかなり

観心本尊抄

文永十年（一二七三）大聖人五十二歳

このお言葉は、『観心本尊抄』の一節です。本書は文永10年（一二七三）4月25日、佐渡において日蓮大聖人が著されたものです。『観心本尊抄』には、釈尊の教えをどのよう

ており国宝に指定されています。正式な書題は『如来滅後五百歳始観心本尊抄』といひます。これは、『釈尊（如来）がご入滅されて後、二千二百二十二年を経た今日、佐渡において、『法華経』の究極の教えともいえる事の一念三千に則り、日蓮が初めて、末法の世に法華経を信仰するための大曼荼羅御本尊を顕すにあたり、すべての経典や釈書の大事を撰述した書」と

いう意味になります。大聖人は、『開目抄』で「仏教の真理である一念三千は『法華経』の如来寿命品第十六の経文の底に秘められている」と述べられ、そして『法華経』こそが正しい教えだと知る者は、天が晴れば、地面が照らされてすべてが見えるかのように、煩惱の迷いの闇を明らかに見通して、悟りを得ることができると説かれました。

## 総本山 妙満寺 第742回 宗祖日蓮大聖人報恩御会式



10月12日、13日に、宗祖日蓮大聖人第742回目のご命日をお偲びする、報恩御会式が総本山妙満寺にて厳修されました。

両日ともに、大導師を大川日仰猊下、脇導師を河野時巧宗務総長、土持

栄孝本山総務がお勤めになられ、また、宗務院各部長、近末寺院、什青会（西日本青年会）、顕立雅楽会（千葉青年僧有志）の各師の法要出仕もあり、厳かな法要となりました。

法要後には、特命布教師秋葉妙琳師（東京都 法成寺内）による、「心 幸せになるために」の法話があり、参詣者は熱心に耳を傾けていました。



大川猊下による御親教



特命布教師 秋葉妙琳師



顕立雅楽会



千葉県 市原市・妙経寺より参詣の檀信徒



# おつとめのお経 一語一話

## 第十七回

お経の中には、たくさんの言葉が出てきます。  
このコーナーでは、毎回ひとつの言葉にスポットを当てて解説いたします。

### 「六波羅蜜」

明けましておめでとうございます。今回は「六波羅蜜」についてお話しさせていただきますと思います。六波羅蜜の文言は顕本法華宗要品(赤本)の回向文にも記載されています。

### 仏

さまや菩薩さまは、人々を救済せんとするお誓いをたてられて、その中で六波羅蜜と

いう、菩薩が行う修行  
を实践されました。

それは6つありまして、

① 布施・財施―真心をもってご供養すること

で貪欲の心を退けること。

法施―正しく仏の教えを弘め安心を

与えること。

無畏施―悪い道に堕ちていかないよう

仏の道を勧め、ともに励み、その結果、

畏れを無くしていくという恵みを与

えること。以上三施。

- ② 持戒・殺さない、盗まない、などの人間がしてはならない根本的なルールのこと。
- ③ 忍辱・苦しみを乗り越えること、努力を辞めない忍耐的精神のこと。
- ④ 精進・精魂込めてひたすらに励む生き方のこと。
- ⑤ 禅定・正しい信仰を積み重ねられるよう、雑念を払うようにすること。
- ⑥ 智慧・仏さまの教えの深い意味も理解できるように、学びを積み重ねること。

### 現

代にも通じるこの六波羅蜜の教えは利他の心とあって、自己中心的な考えではなく、他者をも大切にする、思いやりの心です。

自分だけ良ければいいという考えは、心が貧しくなり不幸になります。その反対に、身近なところでは家族のため、子や孫のため、広くは地域や社会のためなど、無償の気持ちで接する

と、自分だけではなく他者も幸せになれます。この六波羅蜜の教えを實行し、自身のみならず、他者をも救おうとする「仏の道」を實踐する私たちを、お釈迦さまは常に温かく見守っておられます。

そして、私たち顕本法華宗の信徒として何よりも大切なことは、六波羅蜜などのお釈迦さまの教えすべてが込められたお題目を、感謝の心を持ちお唱えすることです。

### 私

は住職として実感していることがあります。す。日頃よりお仏壇やお墓を綺麗に掃除し、ご先祖に感謝し、家族みんなでお題目「南無妙法蓮華経」を唱えられているご家庭は、家族の絆や和の心を自然に持たれています。

信仰生活の實踐は、心も身体も成長させてくれるものです。今年一年も素直な気持ちで、心も身体も元気でいられるようお題目を唱えていきましよう。

(成洋)



# ぶらり 奇々を訪ねて

かつて好評をいただいた連載コーナーが新しくなりました。ご住職からの一言も紹介いたします。

第4教区

## 勝林山 大乘寺

千葉県茂原市小林578



開基 日達上人

創建 不詳

住職 第41世 古山純正師

### お寺の見どころ

大乘寺は、千葉県のほぼ中央、緑豊かな田園地域にあって、境内七百坪を有しています。朱塗りの山門、桜と百日紅・藤棚に囲まれた本堂、参道を進むと高台に楼鐘堂と続き、緑豊かな寺域は四季の自然の折々を楽しむ人々の憩いの場としても広く親しまれています。大正7年、蓮成寺・観行寺・本城坊・円實坊の四ヶ寺を合併し、日蓮宗妙満寺派から顕本法華宗に改めました。

### 住職として心がけていること

年齢を重ねし今、よし、やるぞ！と志をおこし、新しい世界に飛び込みました。しかし、人生の旅路は平坦ではない。雨の日も嵐の日もある。病にたおれる日もある。何度も何度も心を奮い立てて学び続け、ようやく僧侶としてのスタートラインに就きました。法臘浅き身ではありますが、先師の教えを守り、さらには先輩諸氏の御指導をいただき、また、檀家の皆様方のおかげで今日があることを忘れることなく、これからも一生懸命、精進してまいります。



第6教区

## 法華山 大乘寺

京都府南丹市園部町上木崎町 宮ノ口43番地



開基 日澤上人

創建 天正12年(1584年)

住職 第43世 吉永義聰師

### お寺の見どころ

大乘寺は、今を去ること約440年前に日澤上人によって、京都中・北部の法華経布教の道場として創建されました。お檀家の多くが園部藩の時代から近隣に住んでおられるご家庭で、地域に根差したお寺として古くから親しまれてきました。地域でちゃん山と呼ばれる山の中腹に位置し、お寺の前からは園部町の町並みが一望できます。本堂のみの小さなお寺ではありますが、平成6年には、自動車でお寺まで上がれる参道を造成、平成21年には新たな本堂に建て替えられ、法華信仰の拠点として装いを新たにしました。



### 住職として心がけていること

大乘寺は檀家数30数軒の小さなお寺ではありますが、少ない檀家数ながらも参道の造成や本堂の新築という大事業を行えたことは、ひとえに檀信徒の皆様が信仰の下に心を一つにし、仏様のため、ご家族のために一致団結された結果に他なりません。この尊い信仰を後世に伝えるためにも、僧俗一丸となり、法華の教えの受持に勤めるよう心がけております。







鶏つくねの餅巾着



材料

(10コ分)

- 鶏ひき肉…………… 200g
- 玉ねぎ…………… ¼個
- お餅…………… 2個
- 油揚げ…………… 5枚

- A
- 鶏ガラスープの素 …… 小さじ1
  - 生姜チューブ / ニンニクチューブ …… 各3cm
  - 塩胡椒 …… 適量
- B
- 水 …… 600ml
  - 白だし …… 70ml
  - しょうゆ …… 大さじ1
  - みりん …… 小さじ2

作り方

- 1 玉ねぎを細かいみじん切りにする。ボールで鶏ひき肉と玉ねぎとAをよく混ぜ合わせる。
- 2 油揚げを半分に切り、お餅はそれぞれ5等分に切る。
- 3 油揚げを開き①とお餅をいれる。口は波型にし、爪楊枝で閉じる。
- 4 鍋でBを一煮立ちさせ、③をいれ中火で10分煮込む。火を消し5分から10分ほど味をしみこませる。
- 5 爪楊枝を抜いて盛り付ける。汁を少しかけてお好みでネギをのせたら完成。

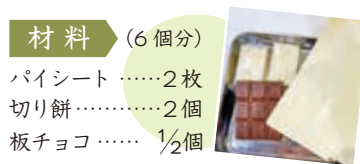


住職さんのメモ

油抜きをしたほうが味が染み込みやすくなります。出汁まで飲む場合は、水で濃さを調整してください。



餅チョコパイ



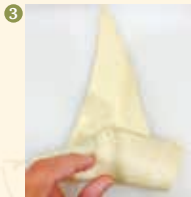
材料 (6個分)

- パイシート …… 2枚
- 切り餅 …… 2個
- 板チョコ …… ½個

作り方

- 1 切り餅を小さく切る。板チョコも小さく割っておく。
- 2 パイシートを好みの形に切る。
- 3 パイシートの大きさによって3等分か4等分に切る。
- 4 餅とチョコを置いて巻いていく。生地をフォークで穴をあける。
- 5 予熱したオーブン200°で23分くらい焼く。

パイシートは解凍してやわらかくしておく



中村文治師

1976年5月5日生、兵庫県姫路市出身。身延山大学仏教学部卒業。岡山県の寺院で5年間の法務経験を経て、現在は円乗寺(兵庫県明石市)住職を務める。

じきほう (食前の食法)

「天の三光に身を温め、地の五穀に魂を養う。皆これ本仏の慈悲なり。」

南無妙法蓮華經。いただきます。」

(天の三光・太陽、月、星。 地の五穀・米、麦、粟、豆、黍などの穀物。)



ご住職が、心のこもった一品を紹介していただくコーナーです。皆様もぜひ。

お正月に残ったお餅を

ご馳走に

メイン  
鶏つくねの餅巾着 & 餅チョコパイ







## “笑顔”や“感動した言葉”募集します!!

皆さまからの“笑顔”の写真や似顔絵、心温まる言葉・感動した言葉を募集します。官製はがきまたは封書にて、ご自身・家族・兄弟・ペットなどの「笑った顔」の似顔絵(写真でもOK)また、感動した言葉をお送りください。絵は大人でも子どもでも、どなたが描かれても結構です。このコーナーにて掲載の方々には、粗品をプレゼントいたします。※写真のみ掲載後お返し致します。

岡山市  
のりたけ  
則武  
なな  
奈々さん(9歳)

「キリン」



### 応募要項

官製はがきまたは封書にて、住所・氏名・年齢・菩提寺名・『心の宝』への感想を記入の上、下記宛先までご応募ください(匿名で掲載希望の方は、その旨お書きください)。

〒700-0818 岡山市北区  
蕃山町 3-5 本行寺内

『心の宝』編集局

メ切り 1月末日  
(当日消印有効)

### 「編集後記」 主任 京都市・寂光寺内 大川孝瑛

平成30年春号より、『心の宝』編集局は西日本在住の僧侶が担当となり、今年で6年目を迎えます。読者の皆様には、顕本法華宗の信仰の入り口になるような誌面をお届けできるよう、常に努めてまいりました。

編集作業には苦労も多かったのですが、読者の皆さまよりいただいたご意見や感謝のお便りは、編集局員の励みになっておりました。読者の皆様にはこの場をお借りし、感謝御礼申し上げます。

昭和44年創刊の『心の宝』は、新聞紙面時代を経て季刊誌となり、今日まで長きにわたって檀信徒の皆さまにお読みいただいている、宗門唯一の布教誌です。

50年以上の歴史ある『心の宝』は今後も宗門の出来事や、顕本法華宗の教義をやさしく・分かりやすく伝えてまいりますので、今後ともご家族皆さんで愛読ください。

南無妙法蓮華經

# 宗門だより

宗務院

## 日蓮聖人門下連合会 佐渡結集

9月13日、日蓮大聖人『観心本尊抄』述作750年慶讃記念佐渡結集(主催、日蓮聖人門下連合会)が新潟県佐渡島において



写真左より4人日、河野総長。

行われ、本宗からは河野宗務総長をはじめ、宗務院各部長、関係者が出席されました。また翌日には門下各代表者が集い、盛大な慶讃法要が厳修されました。

初日には、門下を代表して河野宗務総長のご挨拶の後、立正大学仏教学部准教授・本間俊文氏による「佐渡における日蓮聖人の法華経布教と曼荼羅本尊図顕と授与」の記念講演がありました。

布教部

## 第2回全国布教研修会

10月3日、全国布教部研修会がリモート開催され、妙塔学林准教授・

# 本山だより

## 秋季彼岸会中日法要

9月23日、大川日仰猷下大導師のもと、秋季彼岸会中日法要が奉行されました。

併せて、敬老の日になみ「敬老会」を執り行い、全国末寺檀信徒の健康長寿を祝う祈念が行われました。また、今年古希を迎えられた本山檀信徒に対しては、大川猷下より



お祝いのお言葉とともに、代表の方に記念の数珠が授与されました。

法要後、教区内布教として吉永義聰師(京都・大乘寺住職)の法話があり、参詣者一同、真剣な面持ちで拝聴していました。

## 第742回 宗祖日蓮大聖人 報恩御会式

10月12日・13日の2日間にわたり、第742回目に当たる宗祖日蓮大聖人報恩御会式が大川日仰猷下大導師のもと、厳修されました。

千葉より「顕立雅楽会」所属の僧員が出仕して法要に華を添え、関西から

藤崎裕学師(千葉県成田市・大経寺内)より「初期の宗祖本仏論とその現代的展開」の講義が、特命布教師・川崎英真師(千葉県茂原市・龍光寺)と朝倉俊泰師(千葉県・本行寺)より「想定問答(法華問答)」が行われ、参加者からは質問や活発な意見交換がありました。

第六教区

## 日経上人報恩の会

10月26日、音川教会(富山市婦中町外輪野)にて常楽院日経上人御命日忌報恩法要が厳修されました。各地より参列の会員諸師、並びに音川教会を熱心に護持し



は若手僧員の会「什青会」の会員各聖が出仕するなど、全国各地より僧員各師が多数登山され、賑やかに各法要が奉修されました。

連夜法要に先立ち挙行された「新命住職奉誓式」

ていただいている若瀬氏とともに、日経上人終焉の地でお題目を唱え、不惜身命のご精神で法華経弘通に邁進された日経上人のご遺徳をお偲びいたしました。



に出席の岡山久成寺・長濱良瑛新住職並びに檀家総代や、千葉妙経寺(住職・橋無我師)の団体参拝など、コロナ禍以前に迫る参詣者がありました。

12日の連夜法要では、「雪の庭」や仏舍利塔などがライトアップされ、幽玄な雰囲気の中での法要となり、翌13日は、清々しい秋晴れの好天に恵まれるなか、参詣された檀信徒とともに厳かに正當法要が奉修されました。

法要後は、特命布教師・秋葉妙琳師(東京・法成寺内)による「心 幸せになるために」と題する法話があり、参詣者は熱心に耳を傾けていました。